



いいこいの森



提供：よこはま動物園ズーラシア（横浜市旭区）

一歩先をめざし、さらなる向上をはかる

2024年も早くも1か月が経過しました。原口病院長が統括する新体制は、2022年4月に始まり、3年目を迎えようとしています。現在、当院は次の2つの課題に焦点を当てています。①地域医療へのさらなる貢献と患者のニーズに応える安全な医療の提供、②救急医療の強化。この間、西部病院は様々な改革を進めてきましたが、なお道半ばです。それでも、少しずつではありますが、近隣の先生方から“西部病院は変わったな”という好評価の声を耳にすることができるようになりました。これには西部病院全職員の創意と努力はもちろんですが、先生方からのご協力なしには達成できません。

今年も引き続き、一歩先を目指し、地域医療への貢献や安全な医療の提供、そして救急医療の充実において、さらなる向上を図っていく所存です。患者さんと地域社会に信頼される医療体制構築のために、皆で力を合わせていきましょう。よろしくお願いいたします。



副院長 平 泰彦

Contents

- 眼科のご紹介……………2ページ
- めぐすりの正しい使い方(薬剤部)……………3ページ
- 市民公開講座のご案内／聖マリアンナ医科大学看護専門学校のご紹介……3ページ
- 連携登録医のご紹介(ささお眼科)／新規連携登録医のご紹介……………4ページ



屈折異常・まぶたの疾患・角膜疾患・ 白内障・緑内障・網膜疾患・ 眼外傷などに対して幅広く対応



眼科 部長
荒川 明

当科では眼科全般にわたる診療を行っております。白内障や緑内障をはじめ、角膜の病気や斜視・弱視などの患者さん、あるいは外傷の患者さんなどもご紹介をいただいております。令和3年6月発行の第2号で当科の得意とする網膜疾患や特殊な水晶体疾患の取り組みについて書かせていただきました。現在までその取り組みは継続しており、良好な成績を収めています。今回は、当科における全身麻酔による眼科手術について書かせていただきます。

皆さまは白内障手術に代表される目の手術は、局所麻酔で短時間で行われるものという印象をお持ちではないでしょうか？確かにほとんどの手術は局所麻酔で可能ですが、全身麻酔が必要な場合がいくつかあります。以前から行われているのは、小児の斜視手術です。斜視手術は小児に対して比較的多く行われる手術ですが、全身麻酔が必要です。

最近増加しているのは、認知症を有する高齢の方の全身麻酔下での手術です。見当識障害を有する認知症の方は、術中の体動を自制できないため、局所麻酔下での手術は不可能です。実際にこのような患者さんの手術を行う前には、術後に不用意に目をこすったりしないか、施設やご家族の見守りがどの程度可能か、入院中の夜間せん妄や徘徊のリスクはないか、などを細かく評価したうえで、手術を行うかどうかの決定をします。当科では、このような患者さんに対して全身麻酔下の手術を多数施行してまいりましたが、大きなトラブルなく現在に至っております。このような対応ができるのは総合病院の眼科ならではのメリットと言えますので、これを生かした診療を今後も継続してまいりたいと考えています。引き続きよろしくお願いたします。

めぐすりの正しい使い方



- ① 手指を石鹸で、きれいに洗いましょう。
- ② 頭を後ろに傾け、下まぶたを軽く下にひき、**めぐすりの容器の先を目から離して**、下まぶたの上に1滴点眼してください。1滴入れれば十分です。
- ③ 点眼後は、静かにまぶたを閉じ、そのまま**1分位目を閉じて**おきます。まばたきをすると、めぐすりが目から逃げてしまい、口の中に苦味を感じることがあります。
- ④ めぐすりが目にしみこむのに、少し時間がかかります。**2種類以上**のめぐすりを使用する場合は、なるべく**5分位の間隔をあけて**点眼してください。
- ⑤ めぐすりを使い終わったら、**遮光袋に入れ**、保管しましょう。開封したら1ヶ月で使い切りましょう。
- ⑥ 他人の使っているめぐすりを使うことは、絶対にやめてください。

市民公開講座～脳のおはなし～

● 入場無料 ● 申込不要

- 日 時：2024年2月22日(木)
14:00(開演) 13:30(開場)
 - 場 所：大和市文化創造拠点
シリウス やまと芸術文化ホール サブホール
 - アクセス：小田急江ノ島線・相鉄線 大和駅から徒歩3分
1. 脳卒中になったらどうなっちゃうの？専門医がお教えます
[脳神経内科 萩原悠太 医師]
 2. 脳・脊髄の外科治療(脳卒中最先端治療から予防まで)
[脳神経外科 中村歩希 医師]
 3. 認知症トピック 脳を知って健康になる
[神経精神科 菅原一晃 医師]



聖マリアンナ医科大学看護専門学校のご紹介

本校は、キリスト教の人類愛と生命の尊厳を基に、幅広い領域で社会に貢献する未来の看護師を育成し、4,025名以上の卒業生が国内外で活躍しています。

学生は患者様との関わりから臨床判断能力と看護観を養うため3つの関連病院で臨地実習をおこない、隣接する聖マリアンナ医科大学からも高度な医学知識を学んでいます。これらの特徴が本校の強みであり、看護教育の優れた環境を提供することで看護師国家試験の合格率も全国平均を上回っています。

【沿革】

- 1958年 財団法人聖マリアンナ会東横病院付属准看護学院開設
- 1966年 財団法人聖マリアンナ会高等看護学院(2年課程)開設
- 1972年 財団法人聖マリアンナ会高等看護学院
第1看護学科(3年課程)開設
2年課程を第2看護学科と改称
- 1979年 聖マリアンナ医科大学へ移管、専修学校へ
「聖マリアンナ医科大学看護専門学校」と改称
- 1988年 第2看護学科廃止
- 2012年 完全単位認定制へ移行



神奈川県川崎市宮前区菅生 2-16-1



